



## 設計者に日本人の名前が登場

は歴史に覆い隠されている。星野氏の調査に敬意を払うとともに、私ももっと勉強し、調査に加わりたいと感じた。

話は変わるが、美保関は灯台守官舎が現存し、レストランとして活用される貴重な例だ。ここに初代レンズであるフランス製の第1等レンズが展示されている。もし角島灯台のように、この初代レンズが現役で使われていたら、美保関灯台の美しさと歴史的価値は何倍も増していくだろうと思わずにはいられない。年々各地の灯台からレンズが取り外されているが、灯台の歴史的価値が改めて評価される今、レンズが灯台の大きな魅力の一つであることの理解も促進させたい。(つづく)

みほのせき  
**美保関灯台**  
(島根県)

# 重文指定の 灯台どうだい?

⑦

不動まゆう

これまで記事にしてきた重要文化財指定の灯台はどれもR・Hプラントが設計したものばかりだったが、明治31(1898)年に建てられた美保関灯台は、日本人技手による灯台だ。

プラントンは明治9年に任を解かれ帰国しておらず、半円形の付属舎に円筒の灯塔など、建築、管理をするように明治13年以降次々と帰国して20年近く経った時による灯台だ。

い外国人の力を借りずに、この疑問に答えをくれる。この疑問に答えをくれること星野宏和氏の記事だったのは、公益社団法人・新潟県で見習い技手をしていた大澤正業氏が「プラントン灯台を再現する形で設計した可能性がある」と論じられていた。灯台の設計者として名が表にでるのは外国人技手ばかりで、日本人技術者の名前

レストランに展示さ  
れている初代レンズ

